

組織考える参考に『生物と無生物のあいだ』

自分の考え方の整理に役立つ

3冊の本が手元にあ
り、いずれも自分の考え
方を整理するのに役立つ
本だ。1冊目は福岡伸一
著『生物と無生物のあい
だ』。著者は生物と無生
物との間にはメカニズム
が途絶えるとし、動的
平衡が大切としてい
る。優秀な人物が組織か
ら抜けても仕事が回る組
織でないといけないとい
う。組織の編成や運営を
考える上で、とても参考
になる本だ。

2冊目は実業家・出口
治明著『仕事に効く教養
としての『世界史』』。出
口氏は世界史に関する本
が多く、一般的に読んで
いる。出口氏の著書を読
むと、海外の状況が分か
らないと日本で起きたこ
とが理解できないだろ
う。日本史の教科書を見
ているだけでは分からな
い感覚がある。

例えば日本の会計基準
と欧州の会計基準では
「のれん」の考え方が違
う。文化的な違いが理由
で溝はどうしても埋まら
ない。優劣を付けてどち
らかに合わせるのではな
く、優れた点をそれぞれ
に見つけ、投資家に有用
な情報を提供することが
大切だ。欧州の普遍的な
考え方が何に基づいてい
るか、出口氏の本を読む
と分かってくる。

3冊目は評論家・小林
秀雄氏と数学者・岡潔氏
の対談『人間の建設』だ
が、内容がすごく難し
い。岡氏は数学では表せ
ない何か、情緒が大事だ
と説いている。数式で証
明しても「これはいも
余滴……」

余滴……

もの見方学ぶ

「監査法人という立場
上」会社の要望にくみす
ることではないが、会
社の思いなどを理解しな
がら監査することは大切
なこと」と説く。1冊目
の本から学ぶ。(村上授)

のミクロ視点からマクロ
視点、2冊目の国をまた
いだ物事の捉え方、3冊
目の一つの概念ともう一
方の概念とのバランスの
取り方と、普段からあら
ゆるもの見方について
本から学ぶ。(村上授)



ともあき 智明氏
よしむら 吉村
Mooreみらい 監査法人理事長